

第1回富山県DV対策基本計画検討委員会議事概要

1 日時 令和7年7月30日（水）10:00～11:45

2 会場 富山県民会館 509号室

3 出席委員 委員名簿のとおり

4 内容

（1）座長の選出

座長に宮田委員を選出

（2）議事1 富山県におけるDV対策及び施策の実施状況について

議事2 「令和6年度男女間における暴力に関する調査」の結果報告

議事3 富山県のDV対策の課題等の検討

事務局より説明

（3）委員からの主な発言は以下のとおり（後日書面意見を含む）

○各機関の連携強化や県内全域での支援体制強化について

- ・県域レベルの事業では活動が富山市に偏ってしまうので、他市町村との連携に課題がある。
- ・都道府県間や市町村間の連携に課題がある。
- ・相談機関と警察の連携が必要である。
- ・連携という言葉の中身を具体化して計画に組み込んでほしい。
- ・県内のどこに居住していても必要十分な支援が受けられる体制の整備が重要である。
- ・児童虐待が疑われる事案への連携強化については、要保護児童対策地域協議会やケース会議を開いて、連携を図るよう周知してほしい。

○精神的DV被害者への支援について

- ・自己決定に困難を抱える精神的DVの被害者をDVから離脱させる方法が課題である。
- ・加害者との離別後も被害者本人の精神的な被害は続くので、切れ目のない支援として、母も子も対象とした中長期にわたる心理的支援が重要である。
- ・精神的DVの被害者には中長期的な心理的ケアが必要である。自立に向かう途中で、精神的な被害に苦しむ方をどのように発見し、支援につなげるかが重要である。

○窓口対応職員の資質向上について

- ・市町村によってDV相談対応等のレベルに差があるため、職員の資質向上が必要。
- ・行政の窓口としては、被害の掘り起こしが課題である。被害者を他の機関へつなげるためにも、窓口対応職員が身体的暴力以外のDVの存在を知っていることが必要である。

○デートDVや若年層等への啓発について

- ・小中高生を対象にしたデートDVに関する出前講座を広げるためには、教員に必要性を感じてもらうことが大事である。
- ・デートDVに関する教員対象の研修を実施したらよいと思う。子どもに誤った声掛けをしないためにも、教員にデートDVについて知識を持ってもらう研修は大事である。
- ・現代のネット社会では、ネット上での交際の問題も存在する。罵声や人格否定を浴びること、裸の画像の送信を迫られることなど、10年前とは違うDVの複雑さ、オンライン上の交際におけるDVについて

考える必要がある。

- ・富山県HPのDV事例を充実させてほしい。

○被害者への居住支援や就労支援について

・富山県内に母子生活支援施設がないことは問題である。県と市町村、市町村同士の連携によって困難を抱える母子への住宅支援や就労支援を行う必要がある。

・母子生活支援施設ニーズは極めて高いと感じている。将来的には、加害者の監視を逃れるためにも、富山県内に二か所の母子生活支援施設があることが望ましい。

○配偶者暴力相談支援センターの設置について

・配偶者暴力支援センターの役割を持つ機関が、富山市と高岡市にしかなく、被害者も相談員も大変である。他にも配偶者暴力支援センターをつくってほしい。

・女性相談支援センターから離れた市町村では、職員の対応が大変だと感じる。東部にも遠くにまでいかなくても相談できる場所があれば、皆さん助かるのではないか。

○加害者対応について

- ・加害者プログラムは、適切なものを見分けることが重要である。

- ・「加害者への対応」充実させるべき政策である。専門家を育ててほしい。

○その他

・地域に根差した活動も大事ではあるが、根差しているからこそ相談しにくいという方もたくさんおられるということを検証する必要がある。

・様々な取り組みを成果につなげていくこと、講座等の実施回数だけではなく、その効果がどれだけ広がったのかを加えて検証することが大事である。